科目ナンバリング							
授業科目名 <英訳>	経済学Ⅰ Economics I			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　大黒　弘慈		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	法・政治・経済(基礎)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期	曜時限	月2/月3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

規格化された経済学を祖述するのではなく、経済学の歴史を、おもに貨幣という視角から通覧することによって、経済学への導入を図る。経済学の歴史を通覧すると、マルクス経済学と近代経済学の２つだけでなく、学派の数だけ３つも４つも、あるいはそれ以上に理論が存在することを思い知るであろう。しかしこのことは、理論が時代と地域の特殊性に制約されるという、ありふれた相対主義を意味するわけではない。この講義では、経済学の隣接諸分野をも射程に入れて、異分野にまたがる初学者を経済学に導きいれる工夫をする。それと同時に、経済学のあらたな対立軸を模索することを試みたいと思う。前期の経済学Iでは、経済とは何か、経済人とは何か、貨幣とは何か、という本質的問いを古典古代にまで遡って追究する。

[到達目標]

教科書化された既成の経済学の断片的知識を習得するのではなく、経済とは何か、貨幣とは何か、資本主義とは何かという本質を問う姿勢を身につける。前期はおもに、古代・中世にまで遡ることによって、経済（オイコノミア）の源流＝本質を探ることを目指す。

[授業計画と内容]

以下のようなテーマについて、各１～２回で考察する。

１．経済学の方法
　　考古学と系譜学
　　共和主義研究、経済人類学、世界システム論
　　貨幣数量説と貨幣的経済理論
２．アリストテレスと貨幣の無限
　　シュンペーターとマルクス
　　プラトン
　　アリストテレス
３．中世の経済思想
　　トマス・アクィナス
　　オレームとコペルニクス
　　グレシャムの法則
４．重商主義と貨幣の資本機能
　　重金主義
　　貿易差額主義
　　紙幣重商主義

なお、必ずしも上記計画通り進まない場合がある。

経済学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

経済学Ⅰ(2)

[履修要件]

経済学Ⅱ（大黒担当）の連続した履修が望ましい。

[成績評価の方法・観点]

前期試験の成績による。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
大黒弘慈 『模倣と権力の経済学：貨幣の価値を変えよ（思想史篇）』（岩波書店）ISBN:978-4000253208
大黒弘慈 『マルクスと贋金づくりたち：貨幣の価値を変えよ（理論篇）』（岩波書店）ISBN:978-4000253215
その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

比較的早い時期に、経済学史を通覧した簡便な本を通読しておくことが望ましい。経済学史上の古典を一つ選び、講義の進行とともに読み進めると学習効果が上がる。

[その他（オフィスアワー等）]

詳細な授業計画を、初回に配布する予定である。

[主要授業科目（学部・学科名）]